

八王子消化器病院ニュース

第61号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

消化器病専門医療機関

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL: 042-626-5111

www.八王子消化器病院.com

制作 (株) 教育広報社

おおるり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



病院の基本理念と基本方針

八王子消化器病院 理事長

原田 信比古

新年明けましておめでとうございます。「平成」という時代も三十年の歴史に幕を下ろし、今年はいよいよ新たな元号で新時代が始まります。一世代約三十年と言いますから、名実ともに時代が変わりゆくことを予感した年明けでした。昨今の医療を取り巻く環境は、インターネットや医療番組など情報の普及により、ひと昔前とは比べものにならないほど変化しており、われわれ医療関係者は以前にも増して安全で高度な医療を提供することが求められています。

当院は1983年(昭和58年)5月、中山記念胃腸科病院として開設され、以来、東京女子医科大学消化器病センターの創設者であり、当院の初代理事長である中山恒明先生が提唱した『患者様のための医療』を病院の基本理念として地域医療に携わってきました。この理念は今日では多くの医療機関で当然の理念とされていますが、当時の医学界では医療の原点に立ち返ることを提唱したきわめて斬新な理念でした。この理念を実践するため、当院では4つの基本方針「消化器疾患の専門病院であること」、「地域に密着した病院であること」、「安全で快適な医療を提供できる病院であること」、そして「病院職員が誇りを持って働ける職場であること」を掲げています。

一、消化器疾患の専門病院

医療の分野では「high volume center」という言葉があり、数多くの治療を手掛けている病院ほど合併症の発生率が低く、安全に治療が行えるというデータがあります。病気全体からすると限られた範囲かもしれないませんが、消化器疾患という分野に特化して、数多くの治療を手掛け、安全で根治性の高い医療を提供していきたいと考えています。

二、地域に密着した病院

超高齢社会を迎えて、予防医学「未病」の重要性が広まりつつあります。最近ではインターネットや医療番組により様々な医学情報が氾濫しています。正しい情報は医療の質を押し上げ大変好ましいものですが、中には誤った情報で不安と混乱を掻き立てているものもあります。当院では正しい情報のみを厳選して、わかりやすく地域の方々にお知らせするために市民公開講座や、健康講座を開催しています。また2018年9月から始まった八王子市の内視鏡検査による胃がん検診にも参画し中心的な役割を担っています。

三、安全で快適な医療

患者様が病院に求めるものは「高度な医療」「安全な医療」「快適な環境」と考えています。高度な医療については先に触れた通りです

が、安全もまた最重要な課題です。当院では医療安全管理委員会が、事故には至らなかったものの「ヒヤリ」とした事例や事故を引き起こし得る状況(インシデント)を集計・解析して、定期的に全職員に問題点・改善点を周知しています。また、物理的な療養環境はもとより、接遇の面でも患者様と対等の立場でご意見を伺い、快適に治療に専念していただけるよう配慮しています。

四、職員が誇りを持って働ける職場

病院は様々な職種が協同して業務にあたる医療の現場であり、この連携がうまくいかないと安全性が低下したり、患者様に不快感を与えてしまいます。全職員が対等の立場で業務に専念し、社会福祉の一翼を担っているという誇りを持つような職場を目指しています。

当院では開院当初よりこのような基本理念・基本方針を掲げて診療にあたってきましたが、これらが適正に管理運営されているか、また提供している医療が患者様にとって適切な水準に達しているかを確認するため、2004年から5年ごとに第三者評価機関である『日本医療機能評価機構』による病院機能評価を受けています。審査には「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践」「理念達成に向けた組織運営」など90の評価項目がありますが、いずれも高い評価を得て認定を受けています。

良質な医療は看護、検査、薬剤や栄養の管理、事務処理など、様々な職種の練達したフットワークによって支えられています。長年培ってきたこれらの組織と技術を活用して、今年も一年、八王子の地域医療の一翼を担っていきます。

もっと知りたい!
身体 **病氣** **治療** のコト

臓臓病講座 ◆ 第 8 回
 その他の膵腫瘍について
(2) 神経内分泌腫瘍

八王子消化器病院 顧問
 膵臓病センター長 **今泉 俊秀**

はじめに

今回は前回に引き続き、その他の膵腫瘍として内分泌性膵腫瘍の種類や診断・治療法等を説明いたします。

膵腫瘍の種類

膵臓は、様々なホルモンを分泌しますが、その機能を担うのが膵臓内の「ランゲルハンス島」です。このラ島を構成する細胞が腫瘍化したものを「神経内分泌腫瘍」と云います。小児から高齢者までのあらゆる年齢層で発症しますが、膵腫瘍全体に占める割合は2〜3%と稀な病気です。

同腫瘍は、比較的悪性度の低い腫瘍と悪性度が高く進行の早い神経内分泌癌に分けられます。前者は、膵管癌（膵癌の90%以上を占める 5年生存率10%）に比べて治り易い膵癌（同率70%）と云われ、ホルモンの過剰分泌により特有の症状が現れる「症候性腫瘍」と、症状が殆ど生じない「無症候性腫瘍」に区別されます。なお、神経内分泌腫瘍は、症状があるから進行しているとは限りませんが、自覚症状が早期発見のきっかけになるため注意が必要です。

その他の膵腫瘍について
(2) 神経内分泌腫瘍

1 症候性腫瘍

(1) インスリノーマ

血糖値を下げるインスリンを過剰分泌する腫瘍で、神経内分泌腫瘍の中で最も多く（約70%）認められます。腫瘍の大きさは2cm以下で、殆どが単発の良性腫瘍です。

症状：冷や汗、動悸、意識消失、眼気、けいれん等の低血糖症状が現れます。意識が朦朧として異常行動を伴うこともあり、脳神経疾患や精神病と間違われることもあり、低血糖症状は空腹で悪化し、食事（糖分）摂取で治まります。患者様は経験的にそれを知っているため、無意識に食べて症状の発現を抑えるため結果的に肥満になる方が多くみられます。

(2) ガストリノーマ

胃酸分泌を促進するガストリンは本来、胃粘膜から分泌されますが、これを産生する細胞からなる腫瘍が膵臓や十二指腸にできます。このガストリノーマは、神経内分泌腫瘍の約20%にみられ、過半数が悪性です。症状：胃酸が多量に分泌されるため、

胃痛や胸焼け等の過酸症状、消化不良や下痢、難治性の胃潰瘍・十二指腸潰瘍および潰瘍出血・穿孔を起こします。

(3) グルカゴノーマ
血糖値を上げるグルカゴンを過剰分泌する腫瘍で、大半が膵臓にできます。

症状：糖代謝の低下により軽い糖尿病になったり、身体の各所に痒みを伴う赤い発疹が現れ皮膚が壊死したり、血液中のアミノ酸が少なくなったりします。

(4) その他
非常に稀な腫瘍として、VIP（血管作動性腸管ペプチド）と云う消化管機能を調整するホルモンを異常分泌するバイポーマ（大量の水様性下痢、低カリウム血症、無胃酸症）、ソマトスタチンを過剰分泌するソマトスタチノーマ（胆石、耐糖能異常、脂肪性下痢、低酸症）があります。

2 無症候性腫瘍

無症候性腫瘍は、神経内分泌腫瘍の15〜20%を占め、30〜50歳の女性に多くみられます。自覚症状は殆どなく、健診等で偶然発見されるため膵癌との判別が重要です。

検査・診断法

症候性腫瘍では、症状の詳しい問診のうえで、ホルモン分泌異常の有無を血液検査で確認します。次に、腫瘍が何処にいくつあるか、大きさや拡がり、遠隔転移の有無等を超音波検査、造影CT検査、

MRI検査等で調べます。周囲の臓器や血管に拡がっている、肝臓・リンパ節に転移がある場合は、悪性と診断されます。また、腫瘍の大きさが5cmを超える場合、腫瘍内に石灰化や壊死を認める場合は、悪性が疑われます。無症候性腫瘍の診断も同様の手順です。

治療法

神経内分泌腫瘍の治療では、切除が基本です。手術法は膵癌と同様ですが、悪性度の低いインスリノーマ等の場合、腫瘍だけを切除して膵臓を温存する膵機能温存縮小手術を選択します。主膵管から離れた部位では、腫瘍のみをえぐり取る核出術を行います。また、膵体部腫瘍では、膵体部を切除する中央切除術を行い、その再建法には膵体尾部を空腸や胃と繋ぐ膵腸吻合・膵胃吻合、膵頭部と膵体尾部を繋ぐ膵膵吻合があります。

全身状態不良や遠隔転移により手術が出来ない場合、ホルモンの働きを薬剤で抑えて症状を緩和する抗ホルモン療法があります。なお、抗癌剤には有効なものはなく現在、臨床試験が行われています。

まとめ

神経内分泌腫瘍は、症候性腫瘍と無症候性腫瘍に大別されます。前者は更にインスリノーマ等、ホルモン症状により分類されます。これらは稀な腫瘍であるため、専門病院での診断・治療が重要になります。

高尾山への講中参拝を おすすめ致します

61

八王子市平岡町 在住

高尾山有喜講 講元

落合 龍太郎さん



平成26年より高尾山薬王院の筆頭総代という重責を仰せつかっております。

今では観光地として知られる高尾山ですが、本来は修験道の根本道場であり、人々が心のよりどころとして崇める信仰の霊山です。高尾山薬王院は、今を遡ること壱千二百七十有余年前の奈良時代、天平十六年に聖武天皇の勅命により日本を代表する高僧、行基菩薩により、関東鎮護の総祈禱所として薬師如来を安置し開山しました。以来、連綿と今日までお寺が続いています。現在の宗派は弘法大師空海の教えを守る真言宗智山派で、成田山や川崎大師と同じ大本山として多くの参拝者が訪れています。

今日における高尾山信仰の発展の推進となった基盤は講中(講社)参拝です。江戸中期以

にかけ、高齢化や後継者不足による講員人口の減少、更には若年層の宗教離れといった理由から徐々に講中の解散が増え始め、隆盛期には500団体をこえた講中も、現在では100団体余りまでに減少してしまいました。高尾山のお膝元である我が町八王子にも多くの講社が存在していましたが、現在は数える程までに激減しています。

降、再々に渡る江戸市中への出張により江戸町民から信仰を集め、先達という宗教的指導者の案内により、講元と呼ばれる責任者のもと多くの講(寺社を参拝する信心の集い)が作られました。当時の講員名簿からは、参拝者は江戸町民をはじめ神奈川県、埼玉、群馬、茨城、山梨、栃木など関東一円に及び、新年の元旦から大晦日まで一年を通じて講中参拝で賑わいました。その後、講中は昭和元年から昭和20年代まで増え続け、戦前戦中を除き、戦後の高度経済成長に伴い昭和30年代から昭和60年まで急増しました。現在の大本山高尾山薬王院の講社規定では「講社は30名以上の講員をもって組織し、毎年一回もしくは数回便宜の時期を計り大本山へ参拝する」と定められています。しかし、平成の初頭から半ば

います。このように講中での参拝は、個人での参拝とはまた違った楽しさや喜びを感じる事ができます。

とかく我々三、四十代の働き盛りと言われる世代は、誰しもが向上心や競争力といったビジネスや自己啓発でよく使用される言葉を常に意識しながら生きていかなければなりません。しかし時に私は、我々世代のそのような画一的な考え方が、今日の世の中のあまりにも殺伐とした雰囲気を作り出しているのではないかと思う時があります。競争社会に生きていくからこそ、時には世間の雑踏をしばし忘れ、我が身を省みて、自分自身を取りまく全ての環境に感謝の念を抱きながら世の安穩を講員同士で共に祈る。こうした、ささやかともいえる行いも、今の世の中には大切なことだと思います。

講中での参拝が有難いと思うのは、目に見えない尊い存在である神仏の前でお互いが真実を述べながら、善意の真心をさらけ出すひとときを過ごすことができるからです。このことが、単に講という枠にとられず、もともと奥行きのある人間関係を築けるのではないだろうかと思っています。

私や私の家族が日頃より八王



有喜講法話

子消化器病院に大変お世話になっておるといったご縁もあり、病院の理事の久野様、事務長の天津様には、第一回目より高尾山有喜講による講中参拝にご参加いただいております。また「八王子消化器病院友の会」の青木現会長には、高尾山有喜講の役員もお勤めいただきありがとうございます。大変有難いことと深く感謝をいたすと共に皆様には講中が続き限り高尾山にお参りいただきたいと切に願っております。

21世紀は心の時代と言われる中で、機会がございましたら「おおり」をご愛読されている皆様も、是非ご一緒に高尾山への講中参拝をおすすめ致します。

「患者様の声」 改善事例について

事務長 大津 行博

皆様は、この年末年始に1年間を振り返り、新しい年に向けた目標や計画を立てられたことと思います。当院においても毎年の重要な業務目標のひとつとして、普段の診療や患者様の療養環境を定期的に見直し、改善に向けた活動の一環として外来患者様には年2回入院患者様には年間を通じてアンケートを実施しています。

今回は、それらアンケートを通して患者様から寄せられたご意見をもとに取り組んだ改善事例について、ご紹介いたします。

「車椅子を使用していなくても足の不自由な患者には、車椅子用駐車スペースを使わせて欲しい。」

▼「歩行困難な方、車椅子を使用している方」に対して同駐車スペースを利用していたら、多く院内周知しました。

「駐車場を増やしてほしい。」

▼駐車場の混雑を緩和するために、患者様用駐車場を従来の37台から39台に増設しました。

「1階売店で購入した食品を飲食する場所が欲しい。」

▼売店横にスペースを確保し、テーブルと椅子を設置し、飲食可能な休憩場所としました。

「外来トイレに荷物を置く場所がないため改善して欲しい。」

▼患者様用トイレ(地階・1階)に荷物ラックを設置しました。

「病棟トイレは、トイレレットペーパーが無くなっていることが多い。」

▼病棟トイレの巡回数を、1日2回から5回(清掃を含む)にし、補充対応をしました。

「病棟にて大腸内視鏡検査前に度々トイレを使用するが、皆で使用するため数が足りない。」

▼各病棟共用トイレ(男性用2カ所)の増設工事を行いました。

「病棟の浴室は、数が少なく利用しづらい。シャワーだけでも浴びられると良い。」

▼より多くの方にご利用いただけるよう各病棟1つであった浴室を、シャワー室各2室に改修しました。

「病棟患者食堂は、4人掛けテーブルのため一人では利用する際に気が引ける。」

▼患者様食堂内のテーブルを、少人数用に変更しました。また、景色を見ながら一人でも気楽にご利用いただけるよう窓側にカウンター席を設置しました。

「病棟患者食堂の携帯電話ボックスは、ドアが開いてしまったため使用しづらい。」

▼病棟患者様食堂は携帯電話を全面使用可能としたことに伴い、携帯電話ボックスを撤去しました。

「床頭台の戸棚は、開閉時にボタンと音がするため耳障りである。」

▼消音対策として床頭台の扉に緩衝材を取り付けました。

「入院中は枕が合わず非常に辛かった。」

▼各病棟に高さ・硬さの異なる2種類の枕をご用意しました。ご希望の方は、職員にお声かけください。
※数に限りがあり、ご希望にお応えできない場合もあります。

「味が薄くてもお粥が食べられるような工夫をして欲しい。」

▼お粥は、炊く量に合わせて塩分を調節し味を一定にしています。そのうえで海苔佃煮、鯛味噌等をお付けしています。引き続き、管理栄養士の病棟訪問を増やし、可能な限り個別対応するよう努めて参ります。

「入院時の書類は、住所欄が多く非常に不便である。」

▼「入院申込書」については、電子カルテ上の情報を印刷し、住所変更の有無のみを確認していただくよう運用しています。「タオルセット申込書」は、住所欄を削除し署名のみとするよう書式を改めました。

「退院時に宅配便の手配ができないのは、時代遅れだと思つ。」

▼医事課窓口(1階・病棟)にて、退院時の宅配便手配を開始しました。

「予約専用電話は、昼の休憩時間帯に対応していないため不便である。」

▼予約専用電話の対応時間帯を以下の通り変更しました。

(予約専用電話対応時間帯)
平日 9:00 ~ 17:00
土曜日 9:00 ~ 13:30

以上、患者様からの貴重なご意見をもとにした改善事例の一部についてご紹介いたしました。内容によりご希望に十分にはお応えできないことや改善までに時間を要する場合がありますが、引き続きアンケートにご協力いただけましたら幸いです。

今後も患者様の声に耳を傾け良質な医療の提供と、より良い環境づくりに取り組んで参ります。

想うこと



昨暮にその年を一言で表す漢字として「災」が決まりました。平成という年号が終る年の言葉としては淋しい限りですが、大地震・超大型台風・豪雨、そして命に関わる程の危険な暑さと云う意味から「災害級の暑さ」なる新語が生まれた年とあっては、止むを得ないかと妙に納得させられました。

一方、流行語大賞には平昌オリンピックで大活躍をした女子カーリングチームの「そだねー」が選ばれ、日本中がほんわり温かい気持ちに包まれたのは大いなる救いでした。本年が政治・経済・社会生活等のあらゆる面で「そだねー」の納得の年になるように、決して「そーかね?」にならぬことを願つて。
理事 久野久夫